

LLM戦略比較：韓国の「世界標準」vs 日本の「実務特化」

韓国のLLM「Motif 3」の国際評価と、日本の実務特化型戦略の構造的違いを比較・解説する。

韓国：世界標準を狙う「少数精鋭・集中投資」

AAIIスコア（世界7位）



大型オープンウェイト部門で中央値を20ポイント上回る先頭集団入り。

「エージェント実行力」への特化



評価の58%を占めるコード・ツール利用・科学推論にモデル設計を適合。

日本：産業基盤を支える「多様性・実務重視」

国内業務とコストの最適化



日本語性能、低コスト、機密性を優先し、独自の経済価値を追求。

ポートフォリオ型の支援体制



GENIAC等を通じて多様な社会実装を支援するが、資源が分散しがち。

二層型国家戦略への移行提言



国内特化を維持しつつ、世界標準を狙う「集中トラック」の新設が必要。

勝ち抜き型の国家プロジェクト



日韓LLM戦略比較：決定的な違い

	 韓国 (Motif 3)	 日本 (PLaMo, tsuzumi)
主要目標	 世界水準の汎用エージェント	 国内基盤力・日本語業務特化
支援方式	 少数精鋭・勝ち抜き型	 多数テーマ・ポートフォリオ型
公開形態	 オープンウェイト・英語報告	 API・オンプレミス・企業契約